

国土交通省提出資料

令和2年7月29日

観光業と農業とのマッチングの事例①

一部地域においては、観光業に従事していた雇用希望者と、人手不足の農業経営体とのマッチングが図られた結果、一時休業中の雇用の生計維持に貢献した事例がある。

群馬県嬭恋村における事例

【関係団体】

嬭恋村、嬭恋キャベツ振興事業協同組合

【時期】

4月中旬～

【人数】

約220人（目標値）

【概要】

入国制限等の影響により外国人技能実習生を受け入れられず、人手不足となっているキャベツ農家等において、宿泊施設や飲食店の従業員が就労。嬭恋村は、農家で働く労働者に対し支援金を支給。



群馬県嬭恋村のキャベツ畑で宿泊施設などの休職者らが働いている

キャベツ農家で働く
宿泊施設の従業員
(毎日新聞 6月6日)

埼玉県等における事例

【関係団体】

農協観光、JA

【時期】

6月初旬～

【人数】

約100人（マッチング済み）

【概要】

6～7月の約2か月間、農協観光の社員100人以上をJAが受入。JAさいたまの場合、農協観光の職員6人を臨時で雇用し、JA直売所等で勤務。



JA直売所で働く
農協観光の職員（右）
(日本農業新聞 6月4日)

秋田県仙北市における事例

【関係団体】

仙北市

【時期】

5月下旬～

【人数】

2名（仙北市が試行的に実施）

【概要】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、4月中旬から休業し、自宅待機となっていた乳頭温泉郷の宿泊施設の従業員が、仙北市の仲介により、水田で田植え作業に従事。



田植え作業に従事する
乳頭温泉の従業員
(秋田魁新報 5月30日)

鳥取県三朝町における事例

【関係団体】

三朝町、三朝温泉旅館協同組合、
JA鳥取中央

【時期】

5月中旬～

【人数】

約20人（マッチング済み）

【概要】

三朝町が、三朝温泉旅館協同組合から従業員の雇用確保について相談を受け、慢性的に人手不足となっていたJA鳥取中央とマッチング。温泉旅館の従業員約20人がラッキョウ農家やスイカの選果場に勤務。



ラッキョウ農家で働く
三朝温泉の従業員
(毎日新聞 6月2日)

観光業と他業種とのマッチングの事例②

青森県における事例

【関係団体】

青森県

【時期】

4月10日～

【人数】

5人（マッチング済み）

【概要】

青森県が休業状態の観光施設従業員と県内農業法人をマッチングする「農業労働力ワンストップ相談窓口」を開設。従業員は勤め先に籍をおいたまま、県特産のリンゴや野菜農家で短期アルバイトとして働けるほか、通年雇用も可能。



おいらせ町の農業法人に一時就労した観光施設従業員
(Web東奥5月19日)

山形県における事例

【関係団体】

DMC天童温泉
やまがたさくらんぼファーム

【時期】

5月下旬～

【人数】

6人（マッチング済み）

【概要】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、営業自粛となり、自宅待機となっていた天童温泉の宿泊施設の従業員が、観光振興会社「DMC天童温泉」の仲介により、6月より本格化するサクランボの収穫作業に従事。



観光果樹園でサクランボの木を手入れする天童温泉の従業員(河北新報6月1日)

静岡県における事例

【関係団体】

(株)農協観光、JA

【時期】

6, 7月のうち、各月10日間

【概要】

休業予定の各月10日間については、雇用調整助成金を活用するものの、給与は6割（月額では8割）となるため、従業員に副業を認めるとともに、希望する者にはJAと調整し、出荷場の手伝い業務等を斡旋。

広島県における事例

【関係団体】

広島市安佐南区の「ルンビニ農園」、
宮島の老舗旅館「錦水館」

【時期】

4月中旬～農繁期の11月頃まで

【人数】

6人（一時雇用）

【概要】

入国制限等の影響により外国人技能実習生が来日できない中、袋詰め作業で人手不足となっている小松菜農家において、取引先でもあった旅館(錦水館)の従業員を受け入れた。



ルンビニ農園で働く従業員(右)
(日本農業新聞 6月11日)